



平成27年11月19日

岡山 SGH 校と国際化教育連携を推進

本学大学院環境生命科学研究科は平成27年度、スーパーグローバルハイスクール(SGH)に採択された岡山操山高校、岡山学芸館高校と連携して、高校生の国際教育を実施しています。環境問題をテーマに、教員を講師として、大学院生をティーチングアシスタント(TA)として両校に派遣。高校生の海外環境問題への興味促進と、学生が自発的に行う調査・研究への補助を行っています。

本連携にあたり、本研究科はTAに対して環境ESDをテーマとする教材作成、講義指導を行う「『ESD実践演習』スーパーグローバルハイスクール(SUH)」を開講。TAの教育指導クオリティを保証するとともに、教育指導経験を通して環境ESDの理解を深める教育効果を期待しています。

本学は、文部科学省が選定した「スーパーグローバル大学創成支援」事業の採択校です。本研究科は、今後もSGH認定高校の国際化教育に協力し、高校から大学、そして大学院へのシームレスなグローバル人材育成に努めていきます。

【岡山操山高校との連携】

本研究科と岡山操山高校は平成27年度、「持続可能な開発と環境問題」をテーマに高大連携プログラムを実施。教育課程の研究開発・実践に協力しています。本連携は、グローバル・リーダー育成に資する課題研究を中心とした教育課程の研究開発・実践を通して、国際舞台で活躍できる人材の輩出を目指すことを目的としています。

【岡山学芸館高校との連携】

本研究科と岡山学芸館高校は平成27年度、「環境と貧困問題」をテーマに、課題型探求学習であるグローバル課題研究を行っています。新たな学習指導方法・学習環境の開発や課外活動・体験を教育に組み込む新しい国際教育を実施し、グローバル社会に貢献できるリーダー育成を目指しています。

【ESD実践演習】

本研究科では、環境ESDをテーマとする教育教材の作成指導並びに講義指導を行う「『ESD実践演習』スーパーグローバルハイスクール(SUH)」を開講しました。7～8月には、TAが教育サブテーマ(別紙)についてパワーポイント教材を作成し、模擬講義を行う実習を実施しました。

＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院環境生命科学研究科

副研究科長 藤原 健史

(電話) 086-251-8994 (FAX) 086-251-8994



PRESS RELEASE

岡山学芸館高校への教育サブテーマ

発展途上国における環境と開発の因果関係	地域開発と環境保全とは車の両輪のようにバランスして進めなければならないが、実際にどのように進められているかを調べる。
発展途上国における環境保全の初等教育	日本では環境教育を初等教育の中に組み入れているが、発展途上国ではどのような状況かを調べる。
発展途上国における循環型社会実現に向けた取り組み	日本では循環型社会に向けた取り組みがすでに行われているが、発展途上国においても取り組みが始まっているかどうかを調べる。
発展途上国における廃棄物問題	発展途上国における廃棄物の問題(ごみの収集、最終処分、リサイクル)について調査する。

岡山操山高校への教育サブテーマ

テーマ	内容
農業と貧困	アジアの国では農村地域に貧困者が多く、仕事を求めて都市に移動する人が少なくない。なぜ、農村と都会に貧富の差が現れるのかについて考える。
環境と貧困	アジアの都会では水道やごみ収集などの環境サービスが整い人々は衛生的な生活を送っているが、地方ではそうではない。その理由を貧困と関係づけて考える。
食料危機による世界の飢餓	世界の中でアジア圏の人口増加が著しく、このまま人口が増加すると食料生産が食料消費に追いつかなくなり飢餓者が増える予想される。この食料危機の問題についてアプローチする。
環境に配慮した植物品種の開発	気候変動や害虫、病気などの環境の変化に強い作物生産に向けた品種改良や、土壌改良効果など環境改善の付加価値をもつ品種開発など、環境を意識した最先端の植物機能開発について知見を得る。
気候変動による地域の農業生産への影響	地球温暖化等による地域の気候変動が地域の農業生産に影響を与えている。例えば降雨の減少による砂漠化は、地域を貧困と飢餓に陥れる。そのような事例を知ることで今後の対策を考える。
気候変動と災害について	気候変動が原因として発生する洪水、土砂崩れなどについて、直接原因や発生被害について知るとともに、それらの対策について考える。